

第169回 “いのち” を考える会 報告



—聴覚障害者の医療を考える会—

2018年3月22日(木) 18時30分～20時30分

神戸市立総合福祉センター4階 会議室C

参加者26名(うち聴覚障害者10名)

テーマ: 「肺炎球菌予防接種」

～これって受けたほうがいいのか?～

肺炎球菌? 予防接種? 高齢者だけ?

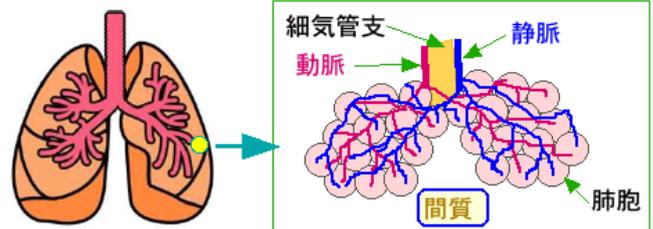
講師: ^{つちや たかあき} 土屋 貴昭 先生 (独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター 呼吸器内科部長)



●肺炎全般について

○肺炎とは・・・

- ・肺実質(肺胞)の、急性の感染性の炎症。何らかの細菌やウイルスが鼻や口から気管を通じて肺の奥(間質)にまで侵入し、急性の炎症をきたした状態。
- ・人間の身体には免疫によって細菌やウイルスを排除する力が備わっている。もともと病気をもっていたりストレスがあつたりで免疫力が落ちているときや、炎症がひどくなった場合は、病原微生物が肺まで入り込んで感染し、肺炎になる。
- ・厚生労働省の平成29年(2017年)の発表によると、日本人の死因の第3位が肺炎!



からだの抵抗力(免疫力)が弱まる



インフルエンザにかかる



歳をとって体力が衰える



糖尿病、呼吸器や心臓に持病があるなど



細菌などに感染しやすくなる



細菌が肺に入り込む(最も多い原因菌は肺炎球菌)



肺炎を起こす

○肺炎の症状

- ・咳：多くは痰が混じる。
- ・痰：多くは膿性（色がついた）で、粘り気のある痰。マイコプラズマ肺炎では痰がないこともある
- ・発熱
- ・胸痛（肺炎が肺全体に及ぶ場合）
- ・呼吸困難・全身倦怠感・食欲低下

○肺炎の治療

- ・抗生物質（点滴、内服）
- ・症状に対する治療薬：去痰剤（痰を出しやすくする）、鎮咳剤（咳止め）、解熱剤
- ・安静、保温、保湿
- ・十分な栄養摂取。食べることが出来ない場合は点滴

○肺炎の予防

日常生活から気をつけることが重要

禁煙、栄養バランス、適度な運動、持病の治療、適切な口腔ケア、予防接種、うがい手洗い、マスクの利用

●肺炎になると・・・ 負の連鎖が！！



長期の安静状態の持続によって、生活不活発病（廃用症候群）を引き起こすことも・・・

- ・筋肉が萎縮したり、関節が変形して固まってしまい、筋力や持久力が低下する
- ・便秘や腸にガスが溜まった状態になりやすい
- ・褥瘡（床ずれ）を起こしやすくなる
- ・誤嚥を起こしやすくなる
- ・不安やうつ状態、知的能力の減退
- ・起立性低血圧がおきやすく、心機能が減退 など

⇒だからワクチン接種で予防が大切！！

●肺炎球菌とは

- ・肺炎の原因となる細菌のうち、もっとも肺炎を引き起こす頻度の高い菌（30.3%）
- ・実はヒトの鼻咽頭に常在している菌
（6歳以下：53.0%、18歳以上：3.7%、65歳以上：4.6%が菌を持っている）

では、65歳以上は4.6%しか菌を持っていないのに、発症しやすいのは何故？？

⇒高齢者では、主に小児の鼻咽頭から肺炎球菌が感染（くしゃみからの感染）した結果、発症する

- ・ヒトの身体から離れると生存できない
- ・感染ルートはヒトからヒトへのみ
- ・莢膜（きょうまく）とよばれる厚い膜でおおわれているため、免疫機能が働きにくい
- ・93種類の型がある

●肺炎球菌に感染しやすい人は・・・

65歳以上、慢性心疾患、慢性肺疾患、慢性肝疾患、糖尿病、喫煙、脾臓摘出者、アルコール依存者など

※インフルエンザにかかることも危険因子です

●肺炎球菌ワクチンの種類

○ニューモバックス NP®

- ・23種類の型を含む
- ・5年ごとに再接種が必要
- ・65歳以上は、平成31年（2019年）3月31日までは定期接種あり。



○プレベナー13®

- ・13種類の型を含む
- ・小児（2ヶ月以上6歳未満）では定期接種



※定期接種を受けなかった人でも、任意で接種できる

※65歳未満でも基礎疾患によっては接種が推奨される場合もあるので、医療機関へ相談

※ニューモバックスを次に受けるまでの5年の間に、プレベナーを接種してもよい

●講演後の質疑応答より

（ろう者の質問）

Q. インフルエンザの予防接種をしたが、インフルエンザにかかった。予防接種の効果はあったのか？ また、インフルエンザの予防接種はいつごろ受けるべき？

A. インフルエンザのワクチンは、その冬に流行するであろうインフルエンザの型を予想して半年以上前から製造されるので、当たらないこともある。でも、予防接種をしているとかかっても症状が軽くなるので、毎年受ける方がよい。

予防接種は10月末ごろから受けることができる。流行る前に受けるほうがよい（12月ごろから流行ることが多い）。受けてからインフルエンザの免疫ができるまでに2~4週間かかる。

Q. 肺炎球菌ワクチンは65歳以上は5年ごとに受けるのか？

A. 肺炎球菌ワクチンには『ニューモバックス NP』と『プレベナー13』（どちらも商品名）の2種類がある。ニューモバックス NPは5年ごとだが、プレベナー13を受けた場合は期間がかわってくるので医師に相談すること。

Q. PM2.5を避けるにはどうしたらよい？

A. ニュースなどを見て、PM2.5が多い日には外出をひかえること。ちなみに、一番身近なPM2.5の発生源はタバコである。

（健聴者の質問）

Q. 親が間質性肺炎にかかったが・・・

A. 間質性肺炎の原因は、細菌やウイルスではないので感染症ではない。簡単に言うと、肺が硬くなる病気。原因はタバコやリウマチなどの膠原病やいろいろある。

